

第3回 有田町総合計画審議会（会議概要）

日 時：平成29年3月28日（火）13：30～15：00

場 所：有田町婦人の家 軽運動室

出席者：【委員13名】岩崎数馬、岩永喜代次、久保田均、川内文昭、庄山嘉、
川尻敦子、岩谷綾子、道津功、松尾利興、山口睦、久家郁子、
徳永純宏、小坂智子

【事務局4名】川久保常德、木寺寿、川久保哲、志賀修

【欠席9名】原田一宏、今泉正子、深川祐次、岩永康則、樋渡毅彦、

岩永節美、山口修、王寺直子、富吉賢太郎

敬称略

1. 開 会

2. 会長挨拶

岩崎：年度末ギリギリという時期に、皆さんにお集まりいただきまして、ありがとうございます。第3回の有田町総合計画審議会ということですが、先般、住民委員会というのが全4回行われておりまして、1月と2月、3回目と4回目に傍聴をさせていただきました。審議会のときに、住民委員会についても皆さんがたからいろいろ意見をいただいておりますけれども、その中では、まず集まるだろうか、中身がどうなるだろうかと言われておりましたが、実際、私が傍聴しましたところビックリ仰天しました。町民のまちへの思い、気持ちはすごいな、意見を一つ一つ聞いてみますと皆さんがたの意見は、潜在的能力といいですか、皆さんそれぞれ意見を持っておられるのだなと関心をしました。それもこれも無作為で選ばれたメンバーですが、そのなかでそういう力があるというのは、まちの将来に向かって素晴らしい形になっていくのではないかなと私自身思いを新たにさせていただきました。そういった住民委員会、それから役場の課長さんがたで組織されている策定委員会での議論を踏まえて、我々審議会は3回目ですが、今スタートラインにたったということで、これからの諮問について皆様がたの忌憚のない意見を出していただいて、素晴らしい形に作り上げて行きたいと考えておりますので、よろしく願います。今日はそういうことで、住民委員会と策定委員会のご意見を聞きながら我々のなかで意見を出し合うという会議になると思いますので、よろしく願います。

3. 議事

(1) 第 2 次有田町総合計画基本構想案について (諮問)

木寺 : まずは諮問を審議会のほうにさせていただきたいと思います。本日山口町長は別用で不在ですので、川久保総務課長から岩崎会長のほうへ諮問書をお渡しいたします。

川久保 (常) : (諮問書を読み上げ、岩崎会長に手渡す。)

(2) 質疑

志賀 : (資料 1 に沿って説明)

岩崎 : 住民委員会を民力としますと、役場の課長さんがたで組織されている策定委員会の官の力をもって基本構想案が出来上がっておりますので、私どもとしましてはこの審議会の中で皆さんがたの意見を聞きながら、中身を作り上げていくという形になっています。その後、町民の皆さんへのインターネットを通じてのパブリックコメントを行っていく形になっていくと思いますので、基本構想案(資料 1) について、どこからでも結構ですが、自分が組織されているところとか、日ごろお考えいただいていることとか、そういうところを出していただければなと思います。1 ページ目の町民憲章については、決まっているものですが、2 ページ目の総合計画の 10 年先を見据えた形になると思います。これも第 2 回の住民委員会の中でつくられてものということです。3 ページ目は、A 案から D 案まで 4 つありますが、これを審議会の中で一本化するのか、一つを選んでいくのかという話ですね。4 ページから後は目標人口、5 ページ以降については住民委員会でのそれぞれの部門で協議をしていただいておりますが、ワークショップ形式で出ておりますが、それをまとめたものです。

川内 : 第 2 節の何々なまちということで、いっぱい列挙されているのですが、こういった字体で書いてあると、最後のほうが「な」というのが多いのですが、これを一般に出したときに、これはどういうことなのかと、文字の並びかたがですね。例えば、図や写真を出して、意見をだしたよということであれば、ソフトになるのだけど、ぱっと出してしまおうとちょっといやみがあるというか。資料としてはよいと思うのですが、表現の仕方がこれをどうしたかよいかといったところです。

木寺 : 考えておりますのは、住民委員会で 4 回にわたって協議した内容をというものを、付属資料という形で後ろのほうに付くこととなりますが、第 2 節の表現、示し方としてその辺を踏まえたところでのということですね。

川内 : トータルの流れが通じるように文を並べてもらえれば助かるなど。例えば何とかな有田というものは、全部同じなので、言いたいことだけを集約するとこそういうことができればいいのかと。

小坂：口頭で説明されないとこれが16案として出てきたものだというのが、まず分かりにくいですね。そういうことで、これが並んでいると違和感があると感じましたが、他は文書化されているのにここだけされていないので、例えば別添資料としてこういう委員会があって将来像についてこういう議論があって、別表のようにこういうのが出てきてそれを集約するとこういう要素があるからこの言葉になったというのが文章化されているほうが、基本構想案として読みやすいという意味かなと思います。16案をひとつにまとめるとおっしゃったところを文書化されているということかなと。いきなりここから始まってくると、逆に住民委員会でいろいろなことを議論してきたという経緯の説明もない。

岩崎：4回の住民委員会の中で、3回目と4回目には傍聴をしてきたのですが、2ページ目についてはですね、第2回の住民委員会の様子を羅列してあるだけで、3回目4回目ともコーディネーターのかたがいらして、それぞれにまとめた形に作業的にもされていたわけです。この6ページが第4回目の最終回でそれぞれの項目についての部分をですね、上げていただいているということで、4回の住民委員会ごとに中身も進化していると私は感じていたんですね。

久家：おっしゃるように2ページ目は住民委員会で出てきたものをまとめたものが3ページ目でこの3ページ目のA～D案を今日決めなきゃいけないということですか。その後、第4節以降のことに対して意見を言っていけばいいということなのでしょうか。

岩崎：そういうことです。我々の意見としては久家委員さんが言われたように、A～D案を一本化したその一つのキャッチフレーズにしていくには、一本化するのかそれとも一つを選ぶのか、具体的な作業となるとそこになりますね。

川内：このなかから一本化するといったら、また別に案をつくるということになるかな。

岩崎：キーワードも「つながり」が出ているし。

岩永：例えば、「世代を超え」の上に、「ひとがつながり」「世界に誇れる」「ブランドのまち」とかに。

久家：それではA～D案をもう少し噛み砕いて説明していただいてよろしいですか。例えばA案だと世界に誇れる賑わいと絆のまち有田というのは世界に誇るのは賑わいと絆の両方だと思うのですが、その場合の賑わいは何なのか、絆というのは2ページ目にある世代間交流というところなのか、あつまり観光・産業・商業賑わいというのがさっきの賑わいなのか、いまいち不鮮明なので、これを聞いただけで後ろに有田というのが付いていないと有田のことを言っているのかどうかたぶん分からないと思うのですよね。それをもうちょっと私たちに情報をいただけないでしょうか。

志賀：第2回の住民委員会のほうで　な町というのが16個できまして、それをまとめる形で、「地域の中で高齢者と若い世代の世代間交流が起こり」ここで、世代間

交流とかつながりとかというのが地域の中の一つのキーワードとして出てきています。ですので、A～Dにかけて「つながり」という言葉をつけさせてもらっていて、絆というのは、つながりという言葉をつけていたのですが、絆のほうがいいだろうという意見がありましたので絆に代えています。ですから、「つながり」とか「絆」とうものが一つのキーワードと考えています。また、その次の段ですが、「地域外から人があつまり観光・産業・商業が賑わい」とあり、ここも地域内外を問わず賑わいが起きる、交流が起きるという形で、賑わいであるとかひとが集うとか、躍動するとかいう言葉がそれぞれ入っています。最後に「若い世代の人たちが住みやすく、誇りに思える。」ここについても誇り、あるいは下の段の世界ブランドという名前、住民の皆さんの中では有田としては、プライドとかをお持ちのなかで、世界にもブランドとして名が通っているよね、そういう町であり続けたいよねという思いから「世界ブランドの町、有田」というのが付いています。ただ、A～Dのなかで「世界ブランド」という言葉を使うものかどうか、あるいは世界に誇れるとか誇りとかいう言葉を使うかどうかは、案として複数案出させていただいたものですが、住民委員会のなかでは「世界ブランドの町」表の町民憲章の中には「世界に誇れるまちの住民として」という言葉があるわけです。ですので、議論となるのは「世界ブランド」という言葉をそのまま使うのかどうか、それとも誇りとか誇れるとかいう言葉を代えるのかというふうな捉え方から始まるのかなと思っておりました。

岩谷：ぱっと世界ブランドと出たときに、どちらかというときもやきものというようなイメージやインパクトが大きくクローズアップされるのではないかなと思うのですね。やっぱり、東はやきもの、西は農業とかになったときに、どうしてもやきものの方が上のほうに来てしまうような気持ちがあるので、平等ラインで考えたときに世界ブランドってニュアンスを変えると、平等に持っていけるような、西と東で昔は別れていたけど今は一体化されているというところを踏まえてのニュアンスをもうちょっとふまえた言葉はないのかなと思ったりもするのですが。

岩崎：世界ブランドとか世界に誇れるということ、有田焼の部門で捉えられるということですかね。

岩谷：そうですね。客観的にぱっと見たらですね。

岩崎：それは残したらいいと言われているのですか。

岩谷：いやいや、それを外すとは言いませんが、それをどうにか平等的な、有田町一体としての考え方を言葉として持っていけるような前後に言葉を足すとかできたらいいのかなと。

岩崎：その言葉もA～Dまで全部出ていますものね。絆という言葉ももともとはつながりという用語だったということですから、つながりも全部出ているし、世界ブランド、世界に誇れるも全部出ているということですね。

小坂：「世界ブランド」ということと、「世界に誇れる町」ということは違うと思うのです。ブランドって何かマークみたいなものだったりするので、確かに有田と言えば世界中が知っている、でもその有田はおっしゃったように陶磁器ということに限られているのかなという気がするので、それとカタカナではないほうがいいかなという感じがして、それからすると、町民憲章に世界に誇れる町という言葉が入っているので、世界に誇れる町という言葉を使ったほうが、具体的にこれを指しているというのも大事なのですが、キャッチコピーとしてこれがと思えるような言葉だとしたときに誇れる町のほうが町民憲章からひっばって来られる言葉かなというふうに思っていますが。

岩崎：ほんとそうですね。世界ブランドといたら有田焼のイメージが。

小坂：世界ブランドがあるからこそ世界に誇れると言えるのだらうと思いますし。

岩崎：歴史も文化もすべてが世界に誇れる、人も。

小坂：西有田のかたが暮らしている場所も、生活の場として暮らしやすさを持っているところだと思うので、もうちょっと広く取れるかなという気がしますけど。

川内：それから言うと、歴史や伝統といった歴史的なものをいれると長くなりますか。

小坂：例えば「ひとがつながりひとがつどう」というのは、具体的には何かということ少し難しいところがあるかも知れませんが、「つながり、絆」というのと「交流」という2つが大事ではないかという説明があった2つは入ってきている言葉かなと思います。「ひとがつながりひとがつどう」というのは、何となくワンフレーズとして言いやすいかなという気がしたので、躍動するまで行っていいですかという気がちょっとしなくはないので、「ひとがつながりひとがつどう」で一拍置いて「世界に誇れるまち有田」とつないだほうがつながるかなとちょっと思いましたが。それが意図しているものと合っているのかは分かりませんが。それでは動きがあまりないでしょうか。躍動したほうがよいでしょうか。有田ならではの特別なものがこの中に入ってくるのかという所は難しいと思いますが。「世界ブランド」という言葉をちょっと拾って。

岩崎：確かに世界ブランドと世界に誇れるは意味が違いますね。言われてみると。

小坂：あとは、絆と活気と交流をどういう言葉で入れるかということかなと思ったのですが。

山口：観光の誘致をしている立場から言うと、世界ブランドがある町というのは世の中にそうなくて、有田ならではの、本当に有田の特徴かなと思っているので、インパクトというか、おっと思わせるためには「世界ブランド」という言葉があったほうがいいなと思っていました。皆さんの意見を聞いていると、やはり有田焼だけが有田じゃないというご意見があると思うので、A～Dの案の中では私はB案がいいなと思っていたので、ご意見をきくとすごくいいなと思っています。なぜかという、すごく言葉が柔らかくほんわかしている感じが、躍動とか言う言葉よりも、いいな

と個人的な感想で思っています。

小坂：世界に誇れるって言えないと思うのですよね。どんな小さな町でも世界に誇っているけれども、みんなの前で世界に誇れるといえる所はなかなかないと思うので、それは世界ブランドがあるからこそ言えているということが含まれているのではないかなと思うのですけど。

久家：やきものに関わっているものの視点なのですが、世界ブランドと、結局、有田のことを知っている人が世界中にどれだけいるかという、ほとんどいないのですよね。なので、世界に誇れるようになるという自分たち住民の気持ちというのであれば、「世界ブランド」というあいまいな言葉というか、有田、西有田だ、農業だ、どうのこうのというすべてが世界に誇れる何かなんだという気持ちを持つということが大切だと思うし、じゃなければ、世界中の皆さんが有田で作られている何かというものを認識されることはないと思いますので、いまご提案されたものはすごくいいなと思います。ひとつつながること、ひとが集うというのが、2番にある1番目の世代間交流と地域外から人が集まるという観光というところの両方を意味していると思うのですね。つながるといのは別に町内の人たちだけのつながりではないでしょうし、町内外の方々とつながり、ひとつがつどうというも、町外の人がある有田に来ることだけではなくて、町内のひとつがつどうということも含まれていると思いますので、私も個人的にはいいなと思います。

岩崎：女性の委員さんから賛成意見が3票入りましたが、男性の委員さん何かありますか。

道津：先ほど山口委員が言われましたように、世界ブランドというのは他にないから、外に対してのインパクトはいいのじゃないかなと思います。それに対して、有田の住民がそれをどんなかと理解しておかないといけないじゃないかなと思いますね。今までの歴史的なものもあるし、やきものもあるようですが、これからも維持していくためにですね。だから農業のほうもそれに向かってやっていくという方向付けも大切じゃないかなと思うのですね。

岩崎：これからのことを町民の皆さんが意識を持つということですね。

道津：一つの例としたら隣の伊万里市は伊万里牛ということで、一つの大きなあれを持っているでしょ。こちらのほうは牛などを飼っておられるところがあるけど、それが表立ってどうかなといったときに、今のところないのですよね。有田牛といったそういうものがね。だから、そういう品評会とかがあったときにインパクトがあるようなものづくりというか、農業にしてもそういうものが大切じゃないかなと思っているところです。

岩崎：以前は西有田牛といった呼び方をしていたのですが、今はなくなりましたものね。伊万里牛ですもんね。

道津：そういうことも大切じゃなからうかと思っております。

岩崎：これを見れば見るほどいろいろな分野についてつながっている言葉がちりばめてありますよね。久家委員さんが言われたように、ひととのつながりは町民もですが、町外の人とのつながり、観光にもつながっていくし、ひとつがどうということも、観光面で言えば通年型観光に繋がるし、世界に誇れるというものは、有田焼はもちろんだし、西有田地区の棚田などもすごい歴史を抱えた遺産ですよ。そういうことも含まれているのかなと私も思っていますね。

徳永：4つの案は、言葉は違いますけど、共通した意味合いですね。例えばA案は賑わい、B案はつどう、C案は躍動する、D案はつながる、これらは人が集まってくることは活気があるということですね。そういう意味では、私はB案でまとまるのかなという感じはしますが。

岩崎：いま課長が「つどう」を「集う」に直したようですが。

木寺：これは原案に合わせたものですが、これは全体的なやさしさとか、自分たちが先に行動を起こしていくためには、ひらがなのほうがきれいにマッチしてたりということもあるんじゃないかなと思って書きました。

岩崎：集うという漢字は何年生から読めるのですかね。つながり、集うというのも世代間もありますからね。子どもたちにもつながっていくような。これは縦書きですか横書きですか

志賀：だいたい横書きです。

山口：歴史とか伝統とかという言葉が、どこの案にも入っていないなと思って、第2節の町民の皆さんの意見を見ても意外と入っていないのだなというのがあって、特に私は歴史や伝統とかを一押しでしゃべっている立場なので、ちょっとさびしいかなと思ったのですが、町民憲章ということなので、この辺は、皆さんの意識の中にはなかったのかな。過去を見るより未来をとということなのかもしれないんですけど。

久保田：つながりの中に過去と未来を連想できるような格好で。

岩崎：私も山口委員と同じ仕事をちょっとしていますけど、世界に誇れるというところにも、有田の歴史とかも入っているのかなと。今言われたように、中身にも入っているのかなと思うのですが。

岩谷：「ひと」だけ漢字にしたら見やすくなりますかね。

志賀：現行の計画はひとが輝き世界にはばたく土と焔のまちで、ひとはひらがなです。

川内：先ほど歴史とかの言葉がないということでしたが、最後の世界に誇れる歴史のまち有田とかしたら、総括的に言えるかな。伝統のまちありたとか、ちょっと長いけど。

小坂：そうすると誇れるが伝統にかかってくるのですよね。

岩崎：これもパブリックコメントでどうなるかわかりませんし、特に住民委員会に出た100人のメンバーが、いやいやということに。

木寺：ひとつ策定委員会のなかでちょっと議論になったのは、例えばいまの伝統とか言

う言葉をこの将来像の文言の中に入れて、より具体的にしていってパターンと、ここをできるだけ簡潔にわかりやすく表現して、基本目標の文言の中に具体的なものを入れ込んでいく方法の両方があるよねという話にはなりました。

小坂：これはやはりこの10年間で何をしたいのかという意見が出てきたときに、人が集まって関係性をもって交流できるというところが一番強く出てきたというふうに読めばいいってことですか。その中には歴史や伝統とか、前だったら輝きたいとかいうところが入っていたと思うのですが、この10年間は人が集まったりつながりができるという10年をやっぱり希望しているという住民の声だと考えるのですか。それは、住民委員会ではそうだけど、この審議会としては、そうじゃなくて、もっと歴史や文化を大事にしなければいけないよということから、この言葉を考えなければいけないのですか。住民委員会の住民のこの10年何がしたいという考えを尊重するというのであれば、歴史や文化というのは後ろの目標の中で具体的に盛り込むことができるけれども、一番目指している有田は世代間交流もある、外からの人との交流のある、つながりつつどうということに集約されていくのですか。であれば、これということになってきますよね。そこを審議会ではさらに追加するという意見が出たときに追加していいのですか。そこまで踏み込むかどうかということはどうなのでしょう。

木寺：そこは踏み込んでよいと思います。住民委員会で世界ブランドや世界に誇れるというようなところをどう表現するかというときに、これに伝統や産業と一緒にしたときに、イメージがどうしてもふくらみが少し狭くなる傾向にあると思うので、将来像として広いほうがいいのかというのは、ちょっと一つは思っています。

岩崎：それぞれの分野の人たちが読んだときに、これは自分のことを言っているのだと思わせることも必要ですね。あの人たちことしか言っていないなと思われたら困りますね。

道津：この世界ブランドの中に、伝統とかも含まれるのではないかなと思いますね。積み重ねてそこにきていると、そういうものも含まれていると思います。世界に誇れるの中にですね。

岩崎：具体的に伝統とか歴史とかを入れるとかいう問題ですが、どうでしょうか。

山口：こういう議論が必要だなと思ったので言ったのですが、なくていいと思います。皆さんの議論の中で、つながりの中に歴史もあるというご意見もありましたし、歴史や伝統となるとすごく狭まるということも理解できましたし。

小坂：課長がおっしゃるように、少し基本目標の中で意図的に歴史や文化、伝統を入れていくというところはいいのかなと思っています。漢字とひらがなは明確にはよく分からないのですが、人を使うと一人ひとりみたいな人、ひとはもっと全体という、person と people みたいな使い分けがあると思うのですが。

久家：ちょっと調べたのですが、人を漢字で書くと全体らしく、ひとと書くとあなたと

という意味らしく、漢字で書くと軽い感じの大多数となるそうです。

小坂：つながり、つどうとつで始まる言葉が並んでいるという意味では、ひらがなのままで、ちょっとひらがなが長いかなと思いますけど。

久家：パソコンで打ったときに、ひとが集うのだけが感じになっているとそこがすごく違和感があると思うのですよね。このB案の違和感がそこに繋がっていると思うので、これが全部ひらがなだと違和感が少し消えるのかなと思います。

久保田：ひらがながいいです。

岩崎：それでは全部ひらがなというふうに多数が流れていますが、それで行きましょうか。このあとの作業の中で、我々の提案として出していきたいと思います。

志賀：6ページの基本目標になります。こちら住民委員会で出た意見であるとか、前回のアンケートを書いていた内容や前回の議論の中身のある程度、言葉としてはできる限り反映させていただいていると思っています。もし、自分の意見が通っていないとか、意味合いが違うとか言うのがあれば、目を通していただいて、ご意見がございましたらお願いします。

岩崎：私の個人的な意見ですが、よくできているなと思いますよね。やっぱり4回の回数を重ねながら、1回に4時間かけられてだけに、熱心に議論をされた中で作りあげて来られて。もうひとつ私が感じたのは、やっぱりああいうふうな町民の意見を引き出すああいう場、何かの形で場があればいいなと感じましたね。あれだけ、潜在能力をもってられるかたがいっぱいいらっしゃいましたからですね。

久保田：5つの基本目標が出ている中で、おせっかいというような意味が、もう少し欲しいな、どういうことをすればおせっかいの町になるのかなと。おせっかいという言葉はひととおり分かるのだけれど、まちづくりのおせっかいはどういう、具体的な、ちょっとこの辺が捉えにくいなと思っています。

岩崎：この場に私ちょっといたのですが、やはりこの反対は無関心。昔は集落のコミュニティで声を掛け合ったり。おせっかいという言葉は使わなくてもいいねという議論もあったのですよ。車社会になって、無関心になって、近所でも挨拶しないような形になっている中で、強烈にするにはこのおせっかいという言葉を使ってもいいなという意見でした。

久保田：いま聞くとなるほどと思うように、反対に無関心という言葉で対比されると非常にわかりやすくなってくるのですが、いい言葉だけど、もう少し伝わるような説明書きがあるかなと思いました。

岩崎：もっと声を掛け合うとか、出てきてもらうとか、そういう場を作ろうということですね。

久保田：そういう意味も含めて、私はもっとおせっかいの中にいま出てきたような。

岩崎：ここの文章は誰が考えたのですか。

木寺：それは住民委員会の意見でフレーズとして出てきたものを事務局で文書にしたも

のです。

川内：基本的におせっかいというより、思いやりとかそういう言葉のほうが。

久家：おせっかいというとあまりよくないイメージが。あえて使うというところをどう伝えるかだと思うのです。それが下の文章に一切出ていないので。

志賀：少し説明をさせていただきますと、2段落目に、このため住民の一体感と協働意識を醸成するとともに、住民の声を政策決定過程に反映し、これはさきほどおっしゃった住民委員会など、政策決定の場に住民皆さんが集まって話し合う場を設けましょうという意味合いです。住民同士やCSO、民間企業や佐大をはじめとした大学などの教育研究機関が互いにおせっかいをやき、積極的に地域の課題解決に参画することで、地域力の向上を目指し、住民と行政の協働によるまちづくりを進めまわすというまとめ方をさせてもらっていて、おせっかいという強烈なフレーズをこういう使い方で、要するに会長がおっしゃるように、無関心ではなくて、皆さんが関心を持って口も出し手も出しというような表現を使っています。

久保田：おせっかいで心が繋がるわけですが、おせっかいで心が離れる場合だってありますよね。

小坂：大学などの機関が互いにおせっかいをやきというのは、ちょっと大学の人間としては、機関がおせっかいをやきというところが、正直ピンとこなくて、住民同士が思いやりを持っておせっかいというのは、例えばおせっかいという言葉を持弧の中に入れて多少こういう使い方をしていてというのは分かると思うのですが、いきなりおせっかいと出てくるのは、住民同士や住民活動団体がというのはまだしも、大学などの教育研究団体がおせっかいをやくというのは私には正直ピンとこなかったです。

岩崎：確におっしゃるとおりですが、4回の住民委員会を重ねられて、そのセッションではいろいろな議論をしてこの文書を作ったわけですよ。

小坂：その議論の中にこういう機関とか役場や企業がおせっかいをやくというイメージがあったのか、それとも個人が無関心でないようにしましょうねというふうなポイントがあったのかということで、この2番目の文章の書き方が違ってこないかと思えますけれど。

岩崎：私は関わるという言葉が一番、そういう意味合いだと思うのですよね。

久家：協働について私は違うのじゃないかと思っていて、協働というのは違うセッション同士が協力をして物事を行うことであるので、例えば住民同士とかCSO同士とか同じセッションの人たちが一緒にすることは協働ではないはずなのです。その書き方と住民活動団体(CSO)とありますが、CSOであれば市民活動組織のほうが正解なのではないかなと思います。住民活動団体=CSOという定義はなされてないはずですよ。みんなで何かをしていこうというのであれば、協働というよりも今は総働という言葉のほうが今のトレンドになってきているのではないかなと。

協働という言葉はだいぶ使い古された10年位前の言葉なので。

岩崎：確かにおせっかいの説明がもっともっといいるでしょうね。

川内：方法としておせっかいを使えばよいのですが、目的となると少し違和感があるね。

岩崎：具体的にはこういう意見もありまして、公民館を開放して子どもたちに来てもらうとか、お年寄りに集まってもらうとか、こういうのをやったら流れが出てくるかと。こういう意味も含めたおせっかいとか。ちょっと説明があるのはいるでしょうね。でも、最終的におせっかいの言葉を選ばれたところに、4回を重ねたところにそれがいいよと言われて様な感じです。

木寺：この分については、住民委員会のほうを尊重したという気持ちはあります。

川内：おせっかいにかぎ括弧をつければ、使えると思いますが、そのものが表に来ているので。

木寺：将来像、基本目標の案ということで、パブリックコメントをうつときに、今回は住民委員会の参画を得て協議を進めている、先ほど小坂委員が言われたように、将来像の考え方がそういったものに基づいて一つに定めるという案を示すときに、住民委員会の流れをここに示してあげないと、全体の説明がつきにくい、分かりにくいという所はあると思いますので、そこはちょっと住民委員会の動きと併せて一緒に提示をさせていただくということで、少しはカバーしたいと思います。

小坂：であれば、一番初めにおせっかいの説明が一段落くらいあるといいんじゃないかなと。おせっかいの説明は2段落目で、3番目が男女共同参画社会で、次が行政の効率化の話になっているので、実はあまり繋がっていないのではないかなと思っております。3番目と4番目は行政としての住民参画とかにいれとかなきゃいけないものかと読んでいたのですが。

岩崎：おせっかいをかぎ括弧にすれば、なおさらのことその説明をしとかないといけない。

小坂：そのおせっかいの中に、男女共同参画やそういうものがうまくひとが平等にいくという説明になりうるのではないかしら。それで、おせっかいのなかにはみんなが協働する場所ができるとか、それから、家庭の中でも住民の中でも男女の区別なく輝けるまちというのも繋がらうかなと思ったので、初めにあるといいのかなと思いました。それと、男女共同参画社会の実現は絶対だと思いますが、最近は多様性とダイバーシティというのも入ってきているかなと思うので、それはこの中に少し盛り込めるといいのかなと思いました。社会の対等な構成員として、男女だけではなく、有田町にも海外からこられているかたもいらっしゃるかも知らないとか、そういう多様性を認めうるということがちょっと入ってもいいのかなと思いました。

久家：赤字で書かれた、町内外への行政情報の発信やタウンプロモーションを強化しま

すというところは、まったくどこにもかかっていないと思うのですが、これはこれで、ここに入れなければいけなかったのだらうなと思いますが、もうちょっととつけてつけたような感があるけどいいのかなと。これは上に書いてある協働やおせっかいいには全く関係ないじゃないですか。これも町民そろってみんなで、自分たちが町のことをPRしていくのだよという書き方であれば分かるのですが。

小坂：上のほうは、主語は町民全体にかかっていて、下のほうにいくと行政が主語になっているのですよ、主体が。

木寺：情報発信やタウンプロモーションといったところは、すべての行政の施策に共通することで、それを謳うのにこの冒頭の住民参画のところを謳おうというところまでは、意見として出ていて、盛りかたの問題だと思います。

岩崎：せっかく、おせっかいという言葉が出ていますので、この説明を具体的に分かりやすく書いてもらっていいですか。今の意見を踏まえてですね。

小坂：例えばつながりつどうということを出してきているので、つながりつどうためには、おせっかいが大事なのですよという流れにするとか、そういうことだと、おせっかいの意味が見えるかなという気がしました。

川内：いま失われているおせっかいをもう一回取り戻そうということですよ。

小坂：つながりつどうためには、おせっかいという言葉にネガティブなニュアンスがあるが、そうじゃなくても積極的にいい意味で使いましょうと。そのおせっかいという言葉で、今まで一歩前を出て、つながりましょうということですよ。

岩崎：昔はそういうふうな慣習があったのですよね。田舎になればなるほどですね。子育て教育も地域でやっていたわけですからね。怖いおじちゃんおばちゃんがいたのですから。

久保田：世代を超えとか、そういうおせっかいの部分です。

松尾：このおせっかいをやくという言葉を除いたら、おかしいわけですか。互いに積極的に地域の課題解決にと。このおせっかいをやくというのをわざわざ入れているということね、ここを何人かお話がありましたように、はっきり気持ちを出さないとこのおせっかいという言葉は、ある意味で和語なのです。ですから、行政用語としてはちょっとなじまないところがあるわけです。和語というのは、意味がプラスもあるしマイナスもある、特におせっかいというのは迷惑なイメージもあるわけですよ。おそらく、そういうイメージじゃなくて、相手が少し嫌がっても、強引にでもいろいろ話をしたり、助力したり、そういう姿勢を持とうじゃないかということだろうと思うのですが、全体の流れからすれば、落ち着かないことなのですよ。これを落ち着かせようとするれば、やはりこのおせっかいをいうのを使った意図がはっきりするような説明を付け加えないと、ちょっとここだけでは流れが。第2段落というのは、結論は4行目の住民と行政の協働によるまちづくりにいたるわけでしょうね。それで、1行目に醸成をして、2行目に反映をして、そしてどうするかと

いうと互いにおせっかいをして、参画するわけです。そして、何を指すかといえ
ば、住民と行政の協働を目指すという流れになっているのではないかなと思ってい
ますが、その中でやっぱり、目に付くのがおせっかいという言葉なんですね。です
から、おそらくこの言葉を一つのキーワードというか、この言葉でもって、このと
ころの段落のキーワード的なものに扱おうという気持ちがあるのじゃないかなと、
拝そうするわけですが。

岩崎：おっしゃるとおりですね。下の説明の中でそういうのを加えていただくとい
うことをお願いしたいと思います。

松尾：そうですね。そのようなところを少し。

岩崎：おせっかいという言葉は、いい言葉じゃないと思うのですよ、ニュアンスとし
ては。でも、あえてそれを使って、昔を取り戻そう、無関心をなくそうという意見が
出ていたからですよ。それを説明のほうで加えてもらおうと。大多数の委員さんがそ
ういう意見ですのでよろしくをお願いします。

川内：6 ページの一番下ですが、寄付文化の醸成を推進するということですが、そこ
まで寄付に頼って町費を賄うという意味なのか。ここにふるさと納税がどうなるか分
からないと思うのですよね。そこを強く出していいものか。どちらかということ、自
粛しろという方向で規制がかかりつつあるわけじゃないですか。そこで、あまりに
出しすぎじゃないかなと、私自身は思います。そういう行政の基金づくりをする
かそういうこと書いてあると思いますが、そこは寄付に頼らず独自の資金を捻出
し、その活用方法としてふるさと納税などを有効に使いたいという書き方ならいい
のだけど、そちらを促すような文なのかなと思いました。

岩崎：予定の時間になりつつありますので、これで終了したいと思います。皆様方
それぞれの立場から貴重な意見を出していただきありがとうございます。10年先が
素晴らしいまちになるのではないかと、住民委員会の中でも思いましたし、皆様方
の意見を聞きながらもそういうことを強く感じた次第です。基本構想の決定に向け
て会議を重ねていくわけですが、聞くところによると来月開催したいということ
です。そのときにはよろしくをお願いします。

木寺：ありがとうございました。会長からもありましたとおり、今後の予定として、本
日、年度末の会議で欠席されている委員さんが多数いらっしゃる中で、パブリック
コメントを打つ前に、今日いただいたご意見を踏まえ、再度修正をかけさせていただ
いて、できましたら4月19日にあと1回開催させていただきたいと思います。
今日の審議を受けて修正をしたものでもって、パブリックコメントに4月中旬に入
らせていただきたいと思います。その後4月19日に審議会を開催させていただき
たいと考えております。他の委員さんへの周知と今回の修正案の審議ということ
でもう1回開かせていただき、5月の中下旬にパブコメが終了しますので、それまで
に出た意見について対応方針を示させていただいて、5月の下旬の審議会をもって

案を確定し、6月議会に上程したいと考えています。

志賀：4月19日の水曜日ですが、ご案内をさせていただこうかと思っています。時間は午後2時。正式なご案内はまた郵送でお送りします。

木寺：それでは、これで3回目の総合計画審議会を終了します。本日はありがとうございました。